



洞爺湖町 自主的学びのための スタンダード^{テン}10

ふるさとを愛し
生き生きと豊かな心で
未来を担う子どもたちを
育てるために

ー スタンダード 10 (テン) とは? ー

- ・子どもたちの「確かな学力」を育むための指標（スタンダード）です。
- ・町内の小・中学校が洞爺湖スタンダード 10 を共通の指標に授業改善に取り組み、「やりがいのある」「楽しい」「わかる」授業を進め、子どもたちの主体的に学ぶ力を育てます。
- ・洞爺湖町の子どもたちのために、家庭・地域・教育委員会が連携・協力し、学校が中心となって進めます。

授業の充実 学校の取組

- 1 授業のきまりなど、授業規律の確立を目指します。
 - 2 児童生徒が自ら考え、表現できる授業を目指します。
- 【授業の5原則】**
 - ①チャイムと同時に始まり、終わる授業
 - ②授業の「めあて」がはっきりしている授業
 - ③発問が工夫されている授業
 - ④思考する時間が確保されている授業（個→グループ）
 - ⑤終末に「まとめ」や「考えの深まり、広まり」のある授業
- 3 すべての教科に共通する「文章の要旨を読み取り、理解する力」の育成を目指します。
 - 4 チャレンジテストなど、活用できる基礎・基本問題の活用を進めます。

家庭学習の充実 家庭との連携

- 5 学習の補充や発展に結び付く宿題を工夫するとともに、家庭と一体で宿題をきちんとやる習慣を確立しましょう。
- 6 「家庭学習の手引き」などを活用し、家庭学習の仕方を身に付けるようにし、主体的な学習態度を育みましょう。
- 7 家庭学習の計画を立て、家庭と一体で生活の中にできるだけ学習の時間を組み込み、休みの日にも学習する習慣を確立しましょう。

学習環境の整備 行政・地域の支援

- 8 掲示の工夫や教科教室など、学びへの意欲を高め、学びの足跡や学びを振り返ることができる学習環境を作りましょう。
- 9 放課後学習、長期休業中の学習会、補充・発展学習など、子どもたちの主体的な学びの機会を作りましょう。
- 10 家庭・地域の学習環境を整え、学習の意欲化や授業の充実のために、教育機器の積極的導入と活用を図りましょう。

スタンダード 10 実践・交流委員会
(26年度発足予定)

計画

実践

検証

改善

喫緊の課題を解決するために

子どもたちの目指す姿

「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の調和的な発達により、「生きる力」を身に付け、社会的人間としてよりよく生きようとする子ども

学ぶことに喜びを感じ、自ら学び、自らが直面する課題を積極的に解決していく、主体的な学習者としての子ども

確かな学力

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力

生きる力

豊かな人間性

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性

健康・体力

たくましく生きるための健康や体力

学力と学習
状況の課題

- ▼全国・全道との差は少しずつ縮まっているものの、基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分ではないことに加え、思考力・判断力・表現力等の「活用する力」も身に付いておらず、全国との差が大きい。
 - ▼苦手意識がある教科では、その教科の勉強が好きだと思う子どもが少ないなど、学習意欲が必ずしも高いとは言えない。
 - ▼学校の授業以外での勉強時間が少ないなど、学習習慣が十分には身に付いていない。
 - ▼学校間で、学力の状況に差があり、町全体として同じ学力レベルではない。
- * 全国学力・学習状況調査の結果より